

防 災 係

1 災害対策

(1) 訓練

ア 福生市総合防災訓練

日 時 平成 16 年 8 月 29 日 (日)

悪天候のため中止

イ 起震車体験訓練

目 的 人工地震の揺れのなかで、出火防止、避難路確保等の実践体験を通じて防災行動力の向上及び防災意識の高揚を図ることを目的とし、自主防災組織(町会)、学校、事業所等で福生消防署の協力により初期消火訓練、応急救護訓練等を併せて行った。

運用回数 25 回 (平日 10 回 土・日曜日 15 回)

運用先 自主防災組織 7 回、学校等 8 回、事業所等 10 回

体験者数 4,039 人

(2) 災害対策事業

ア 福生市防災会議

開催日 平成 17 年 3 月 28 日 (月)

議 題 福生市地域防災計画について
備蓄品等の状況について
その他

イ 地域防災計画の修正

前回修正を実施した平成 10 年度以降の組織改正及び平成 13 年度に作成した災害対応職員マニュアルとの整合性を図るため、地域防災計画の全面見直しを行った。

250 部を作成し、関係機関等に配付した。

ウ 防災啓発活動

(ア) 自主防災リーダー講習会及び救命講習会

講習日 平成 16 年 7 月 10 日 (土) 午前 9 時 ~ 午後 3 時

場 所 扶桑会館及び福生消防署

参加者数 54 人

(イ) 自主防災組織による災害体験学習

月日	自主防災組織名	学 習 場 所	参加者数(人)
6.13	本 町 第 七 地 区	横浜市市民防災センター	82
6.23	福 生 団 地 地 区	横浜市市民防災センター	35
6.27	武 蔵 野 地 区	さいたま市防災センター	23
9.14	富 士 見 台 地 区	横浜市市民防災センター	32
10. 3	永 田 地 区	本所都民防災教育センター	27
10.10	本 町 第 二 地 区	立川都民防災教育センター	35
10.16	本 町 第 一 地 区	立川都民防災教育センター	17
10.17	志 茂 第 二 地 区	さいたま市防災センター	39
10.24	南 田 園 二 丁 目 地 区	埼玉県防災学習センター	40
11.14	本 町 第 三 地 区	埼玉県防災学習センター	20

月日	自主防災組織名	学 習 場 所	参加者数(人)
11.23	本町第八第一地区	千葉県西部防災センター	38
11.27	鍋ヶ谷戸第一地区	本所都民防災教育センター	21
12.5	福 栄 地 区	立川都民防災教育センター	30
12.11	武蔵野台一丁目地区	立川都民防災教育センター	26
12.12	本町第八第二地区	横浜市市民防災センター	30
17.2.6	加美第一地区	立川都民防災教育センター	28
2.13	本町第六地区	千葉県西部防災センター	23
2.19	内 出 地 区	さいたま市防災センター	22
2.20	玉 川 台 地 区	立川都民防災教育センター	25
2.27	加美平団地地区	池袋都民防災教育センター	37
3.2	原ヶ谷戸地区	池袋都民防災教育センター	48
合計	21地区		678

(ウ) 自主防災訓練の実施

自主防災組織名	参加者数(人)	自主防災組織名	参加者数(人)
福生熊川住宅地区	130	牛浜第一地区	162
南 地 区	30	牛浜第二地区	76
内 出 地 区	160	原ヶ谷戸地区	27
武 蔵 野 地 区	16	志茂第二地区	25
福 東 地 区	84	本町第七地区	113
鍋ヶ谷戸第一地区	100	本町第八第一地区	50
鍋ヶ谷戸第二地区	41	本町第八第二地区	4
熊川牛浜地区	60	武蔵野台一丁目地区	17
福生団地地区	230	加美平団地地区	100
南田園一丁目地区		長 沢 地 区	270
南田園二丁目地区		加美第一地区	303
南田園三丁目地区	加美第二地区	65	
		合 計(24地区)	2,063

エ 応急対策資器材・物資整備計画

応急食糧として乾パン等のランニングストックを継続実施した。

避難所の機能強化のため、避難所に指定されている福東会館近辺に備蓄倉庫を設置した。

オ 初期消火体制強化計画

街頭設置消火器及び格納箱の新旧取替えを実施した。

2 消防活動

(1) 常備消防(福生消防署)

福生、羽村、瑞穂の2市1町を管轄区域として、本署と3出張所に総員189名の署員と消防ポンプ車5台、予備車2台、化学車1台、ハシゴ車1台、救急車3台、救急予備車1台、指揮隊車1台、指揮観察車1台、査察広報車3台及び人員輸送車1台からなる陣容で予防行政の執行、災害活動等に従事している。

出場状況(管轄区域)

(単位:件)

火災	非火災	水災	救急	救助	危険排除	緊急確認	合計	前年度合計
115	30	3	7,565	410	99	77	8,299	7,787

(2) 非常備消防(福生市消防団)

市内に5個分団、団員185人と消防ポンプ車5台、指揮車1台からなる消防団組織があり、消防活動を実施している。

ア 消防団組織

団 長 (1人) 副団長 (4人) 本部付団員 (6人)	—	第一分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部 長 (3人)	班 長 (9人)	団 員 (20人)
	—	第二分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部 長 (3人)	班 長 (9人)	団 員 (19人)
	—	第三分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部 長 (3人)	班 長 (9人)	団 員 (20人)
	—	第四分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部 長 (3人)	班 長 (9人)	団 員 (20人)
	—	第五分団長 (1人)	副分団長 (2人)	部 長 (3人)	班 長 (9人)	団 員 (20人)

イ 配置車両

分団名	車両ナンバー	車 両 の 種 類	車両購入年月日
団本部	八王子 800 さ 6574	普通自動車「ワゴンタイプ」(ニッサン)	平成 15 年 9 月
第一分団	八王子 88 す・659	普通消防ポンプ自動車(ヒノ)	平成 10 年 11 月
第二分団	八王子 88 さ 8964	〃	平成 9 年 10 月
第三分団	八王子 830 さ 2303	普通消防ポンプ自動車(ミツビシ)	平成 11 年 11 月
第四分団	八王子 88 さ 8169	普通消防ポンプ自動車(ヒノ)	平成 9 年 3 月
第五分団	八王子 830 さ 2305	普通消防ポンプ自動車(ミツビシ)	平成 12 年 12 月

ウ 年齢別団員数(平成17年3月31日現在)

(単位:人)

年齢 団員数	18~20歳	21~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳	41~45歳	46~50歳	51歳以上
185	0	37	45	56	38	8	1	0

エ 在職年数別団員数(平成17年3月31日現在)

(単位:人)

在職年数 団員数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
185	57	63	38	22	4	1	0

オ 退団・入団員数

(単位:人)

区 分	平成16年4月1日現在	退団者	入団者	階級移動	平成17年4月1日現在
本 部	5				5
本部指揮班	6				6
第一分団	35				35
第二分団	33		2		35
第三分団	35	1	1		35
第四分団	35	1	1		35
第五分団	35				35
合 計	184	2	4	0	186

カ 消防団員火災出動状況

火災発生件数(件)	出 動 回 数(件)	延べ出動団員数(人)	平均出動団員数(人)
58	22	2,251	102.3

キ 消防団出動状況(風水害等)

延べ出動団員数(人)	出 動 回 数(回)
286	2

ク 消防団警戒等特別出動状況

警 戒 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
祭 礼 警 戒	128	2
七 夕 警 戒	409	4
歳 末 警 戒	425	3
そ の 他 の 警 戒	458	16
合 計	1,420	25
前 年 度 合 計	1,210	18

ケ 消防団各種訓練(消防)

訓 練 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
火 災 防 御 訓 練	421	5
ポ ン プ 操 法 訓 練	5,264	71
機 関 訓 練	1,683	51
規 律 ・ 礼 式 訓 練	448	3
教 育 訓 練	640	13
住 民 指 導	0	0
合 計	8,456	143
前 年 度 合 計	8,078	123

コ 消防団各種訓練(災害)

訓 練 名	延べ出動団員数(人)	出動回数(回)
教 育 訓 練	212	7
住 民 指 導	1,093	39
合 計	1,305	46
前 年 度 合 計	992	34

サ ポンプ操法審査会(第52回)

審査会は、団員に対して消防ポンプ操法の基本を身につけ、指揮者と団員との連携を訓練し、もって団員の士気向上を図り、火災防御活動が迅速かつ確実にでき、火災による生命・財産の損害を最小限に防止することを目的とし、ホースカーによるホース延長操法及び手びろめによる延長操法を隔年で実施している。

平成 16 年度	ホースカーによるホース延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第四分団	第三分団	第一分団
チーム成績	第四分団 B	第三分団 B	第四分団 A

前 年 度	手びろめによる延長操法		
	優勝	第 2 位	第 3 位
総合成績	第二分団	第四分団	第三分団
チーム成績	第二分団 B	第四分団 A	第一分団 B

(3) 火災の状況

ア 月別火災発生件数

月	建物			車両 (件)	その他 (件)	合計 (件)	焼失面積 (㎡)	非火災 (件)	消防団 出動回数 (回)
	全焼 (件)	半焼 (件)	ぼや (件)						
4	1	1	1		3	6	49	2	3
5			3		3	6			1
6			1		1	2			1
7	1				1	2	15		
8		2				2	89 (24)		2
9		1	8		1	10	3	2	2
10		1	5		2	8	10 (25)	1	2
11		1			2	3	(3)	1	2
12		1	2		3	6	(1)	1	2
17年1	1		1		2	4	40	2	2
2		1			3	4	40 (80)	3	3
3			3	1	1	5		1	2
合計	3	8	24	1	22	58	246 (133)	13	22
前年度 合計	1	5	16	6	14	42	510 (83)	16	24

半焼は、部分焼を含む。焼失面積の()内は、表面積

イ 原因別火災件数

(単位：件)

原因		放火 (疑い含む。)	たばこ	ストーブ	ガスコンロ等	火遊び	その他	合計
件数	平成16年度	31	13		5	3	6	58
	前年度	14	14		4	2	8	42

(4) 消防水利施設

ア 水利

(単位：基、箇所)

消火栓		合計	防火水槽			貯水槽		合計	プール
150mm未満	150mm以上		20m³未満	20m³以上 40m³未満	40m³以上 60m³未満	60m³以上 100m³未満	100m³以上		
454	156	610	38 (0)	6 (0)	100 (89)	16 (16)	19 (19)	179 (124)	17

()は、耐震性防火水槽・貯水槽で内数

イ 消火栓新設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	口径	備考
1	大字福生 2245 番地 3	100×75	地下式単口
2	加美平一丁目 9 番地 1	〃	〃
3	大字熊川 886 番地	〃	〃
4	大字熊川 1035 番地	〃	〃
合計	4 箇所		

ウ 消火栓移設箇所

(単位：mm)

番号	設置箇所	新口径	旧口径	備考
1	大字福生 1209 番地	100×75	100×75	地下式単口 地下式単口
合計	1 箇所			

